

斐伊川総合水系環境整備事業

【事業再評価】（案）

令和4年11月10日

国土交通省 中国地方整備局



国土を**整**え、全力で**備**える
国土交通省
中国地方整備局

- 斐伊川流域（神戸川を含む）は、島根、鳥取両県にまたがり、松江市、出雲市、米子市他の7市2町からなり、流域には、出雲空港、米子空港や境港、山陽と山陰及び東西を結ぶ陸上主要交通網が存在し、交通の要衝となっている。
- 全国的にもまれな連結汽水湖である宍道湖及び中海はラムサール条約の登録湿地であり、西日本有数の水鳥の飛来地となっているほか、斐伊川本川、神戸川にも豊かで多様な動植物が息づき良好な景観が形成される等、自然環境が多く存在している。
- 河川空間の利用については、河川敷の一部が運動広場、河川公園等として整備され、散策やレクリエーション、自然学習等様々な目的で利用されており、宍道湖及び中海では、広大な水面を活かしたレガッタ、釣り等の水面利用及び、バードウォッチング等の自然観察・散策が盛んである。



シジミ漁とコハクチョウの群れ
(宍道湖・斐伊川河口)

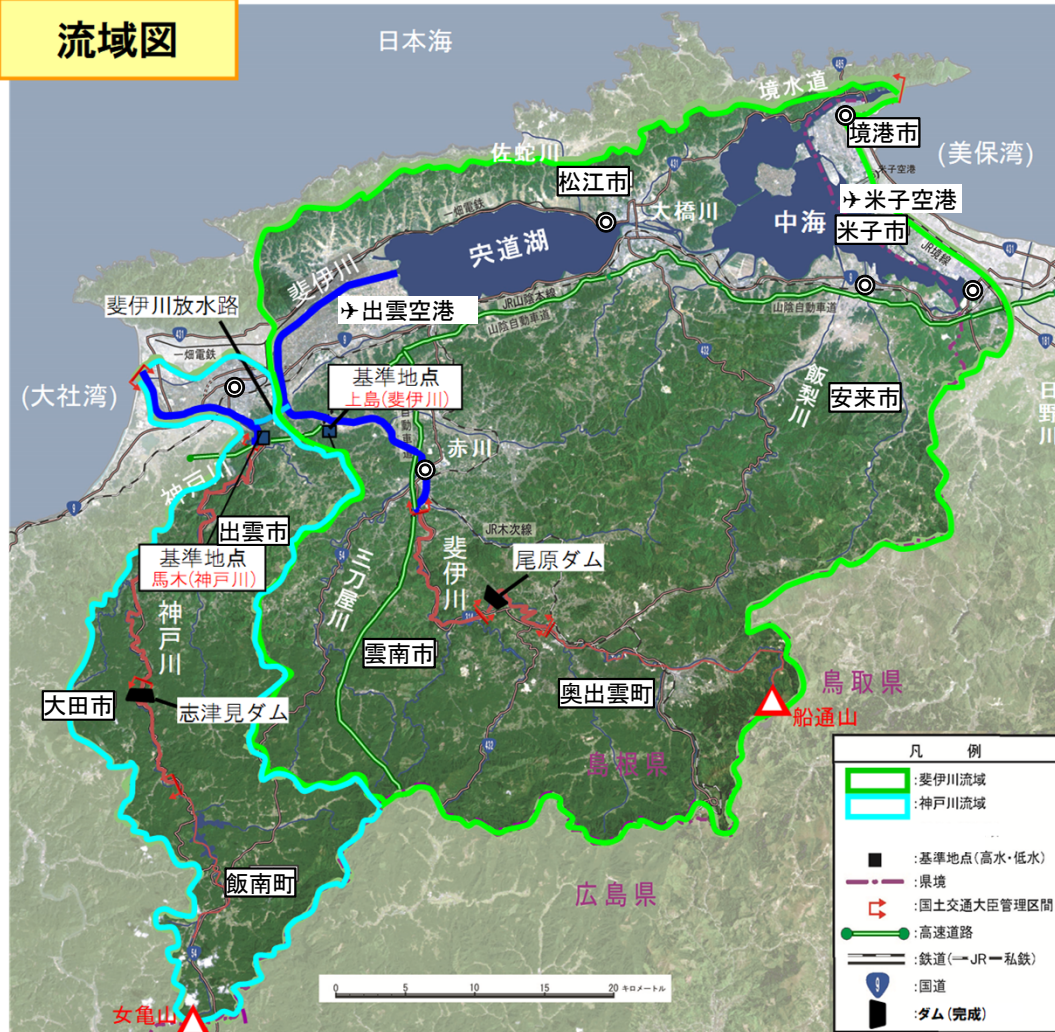


イベント利用状況



自然学習(水生生物調査)

流域図



【斐伊川水系の諸元】

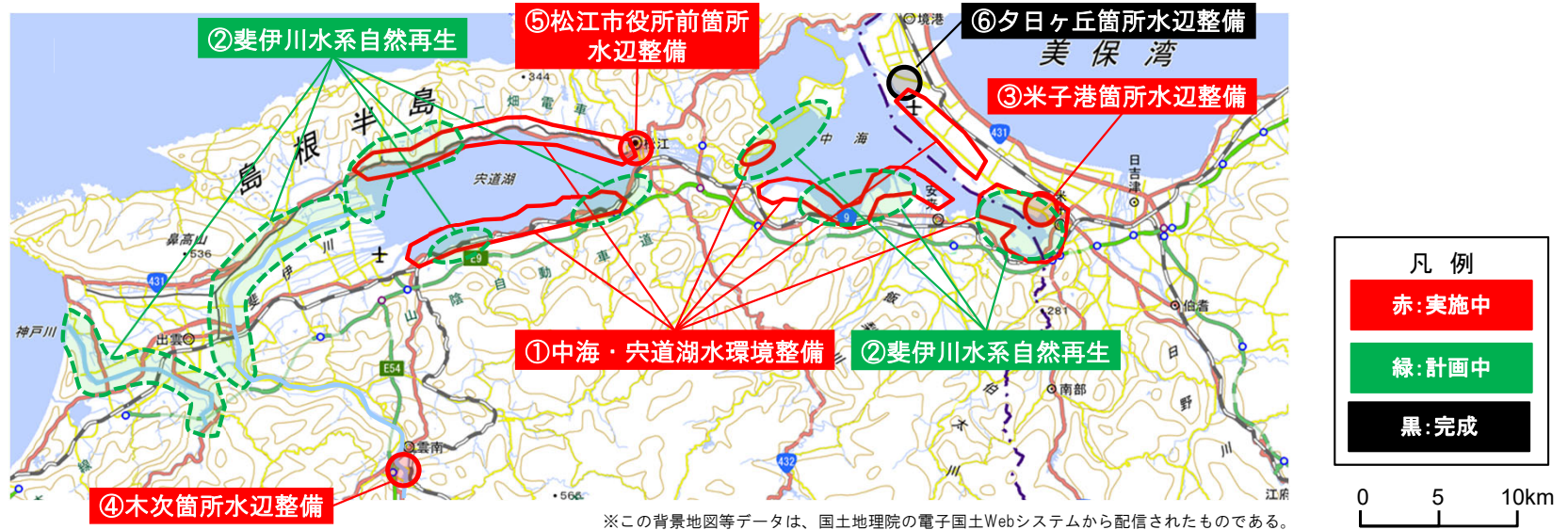
流域面積	: 2,540km ²
幹川流路延長	: 153km
山地面積比率	: 約89%
流域内人口	: 約50万人

I . 個別事業の完了箇所評価

1. 個別完了事業の概要

現在の計画について

- ・ 斐伊川総合水系環境整備事業では、現在、6箇所の整備が位置づけられている。
- ・ 今回、1箇所の完了箇所評価を実施し、事業評価の対象箇所から除外する。



	個別整備箇所	評価種別	審議(説明)内容
斐伊川総合水系環境整備事業	①中海・宍道湖水環境整備	再評価	事業継続
	②斐伊川水系自然再生	再評価	事業追加
	③米子港箇所水辺整備	再評価	事業継続
	④木次箇所水辺整備	再評価	事業継続(事業費の変更)
	⑤松江市役所前箇所水辺整備	再評価	事業継続 今回完了箇所評価
	⑥夕日ヶ丘箇所水辺整備	完了箇所評価	個別事業の完了

2. ⑥夕日ヶ丘箇所水辺整備 評価の視点

完了箇所評価

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【全体事業費】 156百万円

【事業期間】 7年間 2016年度（平成28年度）～2022年度（令和4年度）

【整備目的】 自然に親しめる水辺環境の育成を目指し、周辺の公園等と一体となった水辺の利用ができるよう親水護岸や河川管理用通路等の整備を行う。

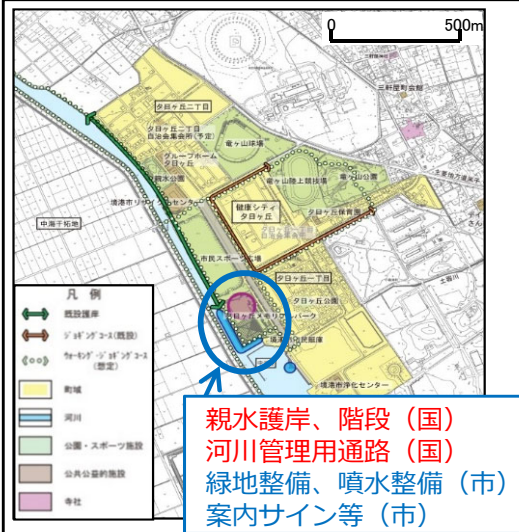
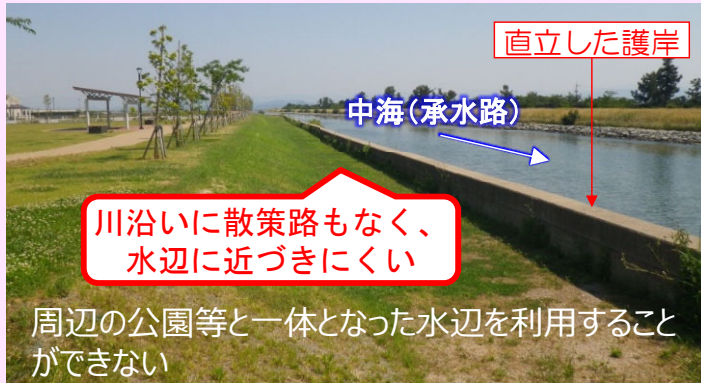
【整備前の課題】

- ・ 境港市夕日ヶ丘地区周辺は、公園やスポーツ広場などのスポーツ・レクリエーション施設が多く、また中海ではボートやカヌーなどの水上スポーツも楽しむことができる。しかし、水際の護岸が直立しており、川沿いに散策路もなかったため、水辺に近づきにくい状況だった。

【整備内容】 (国) 親水護岸、河川管理用通路、階段、(市) 緑地整備、噴水整備、案内サイン等



【整備前の課題】



【整備内容】



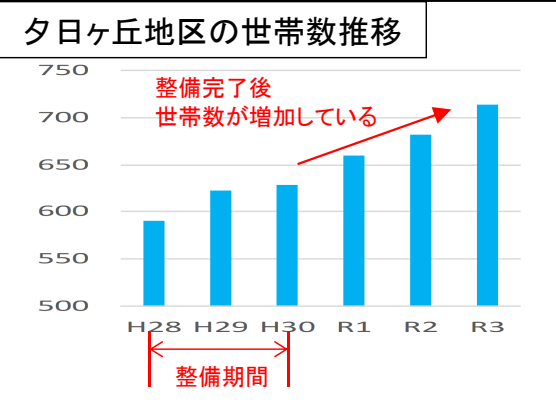
(2) 事業の効果の発現状況

- ・護岸や散策路の整備により、水辺に近づきやすくなり、公園等と一体となった水辺の利用ができるようになった。
- ・公園等との一体利用により、水辺空間が市民の憩いの場、ふれあいの場となっている。
- ・費用対効果：B/C=6.7

整備後(現状)



- ・水辺に安心して近づくことができる親水護岸を整備
- ・川沿いに散策やウォーキングなどができる散策路を整備
- ・公園入口に、案内サインを設置



利用状況(公園・親水護岸)

● 日常の利用状況





● イベント時の利用状況



水辺で乾杯




水辺で乾杯時のペーロン体験乗船会



こどもペーロン大会



いきいき浜っこ祭

- ・水辺に安全に近づき、利用することができ、また、ウォーキングやランニングにも利用されています。
- ・公園と一体となった利用ができるようになり、市民の憩いの場、ふれあいの場となっています。

● 日常の管理



中海・宍道湖一斉清掃

(3) 事業実施による環境の変化

- 事業に伴う環境変化に関する指摘・問題等は発生していない。

(4) 社会経済情勢の変化

- 事業実施箇所である境港市の世帯数はやや増加しているが、大きな変化はない。
(H27国勢調査：14,990世帯 → R2国勢調査：15,247世帯)

(5) 今後の事後評価の必要性

- 水辺整備（かわまちづくり）としての整備を完了し、整備効果の発現が確認されたため、今後の事後評価の必要はない。

(6) 改善措置の必要性

- 事業目的に見合った事業効果の発現が確認されたことから、今後の改善措置の必要性がない。

(7) 同種事業の計画・調査のあり方または事業評価手法の見直しの必要性

- 当該事業に関わる計画・調査については、関係機関と連携して取り込んでおり、妥当である。
- 事業評価手法については、評価実績を蓄積していくとともに、評価技術の向上等を踏まえつつ必要に応じて改善を図っていく。

(8) 対応方針(原案)

- 今後の対応なし

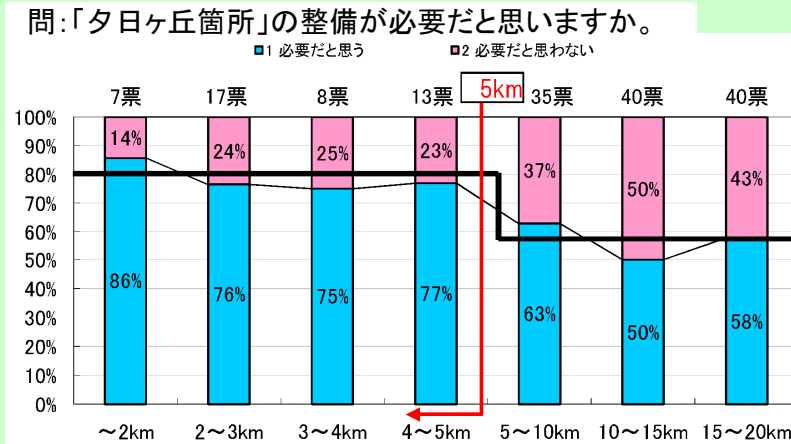
(理由)

- 投資効果が確認されており、今後の事業評価及び改善措置の必要性はないと判断される。

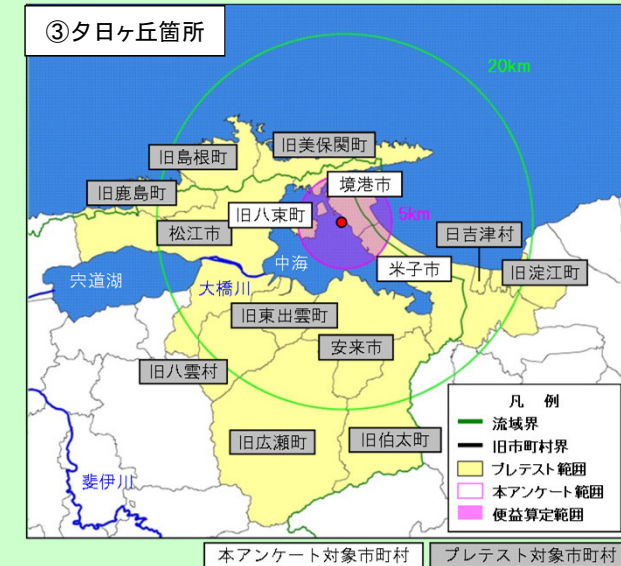
● CVM (住民アンケートによる支払意思額の調査)

■ 調査範囲(アンケート配布範囲=便益集計範囲)の設定

・2015年(H27)に実施したCVMアンケートプレテストにおいて、5km圏以上となると整備が必要だと思われる回答者が減少する。



※1~2km区間の回答数が0票であったため、0~2kmをまとめて集計している。

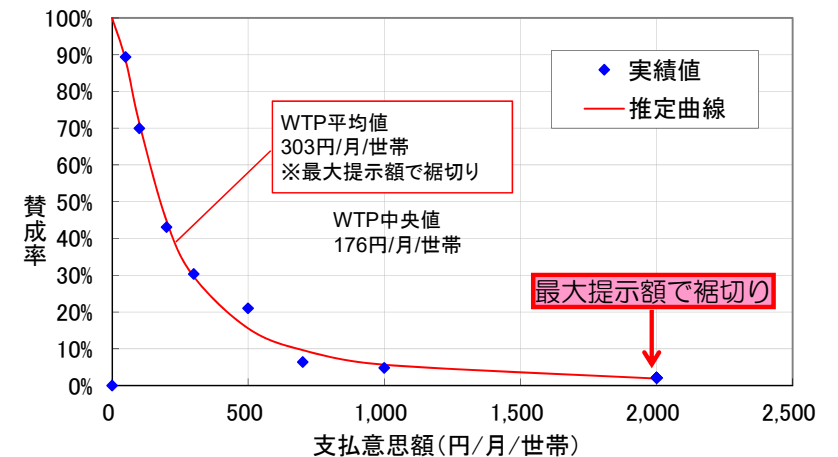


【アンケート回収率・有効回答率】

	夕日ヶ丘箇所 水辺整備
目標標本数	375
配布数	2,000
回収数	686
回収率	34.3%
有効回答数	376
有効回答率	54.8%

【支払意思額(全体事業)】

	今回評価 (2022年度)
評価手法	CVM
支払意思額 (全体事業)	303 円/月/世帯数
受益世帯数	15,247世帯 (R2国勢調査)
年便益	55.4百万円



(アンケート結果) ③ 【自然再生】夕日ヶ丘箇所水辺整備

【全体事業】支払意思額(WTP) = 303円/月/世帯、受益世帯数 15,247世帯

年便益 55.4百万円/年 (=303円/月/世帯×12ヶ月×15,247世帯)

Ⅱ．斐伊川総合水系環境整備事業の事業再評価

1. 再評価の重点化・効率化判定票
2. 斐伊川の河川環境に関する目標
3. 斐伊川総合水系環境整備事業(全体)の事業箇所と内容
4. ①中海・宍道湖水環境整備
5. ②斐伊川水系自然再生(新たな整備予定箇所)
6. ③米子港箇所水辺整備
7. ④木次箇所水辺整備
8. ⑤松江市役所前箇所水辺整備
9. 費用対効果分析結果
10. 今後の対応方針(原案)

1. 再評価の重点化・効率化判定票

項目	判定		
	判断根拠	チェック欄	
事業を巡る社会経済情勢等の変化			
事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	<p>事業箇所周辺の松江市、出雲市、安来市、雲南市、米子市、境港市等の人口・世帯数に大きな変化はないが、斐伊川水系自然再生を追加する必要が生じた。</p> <p>【中海・宍道湖水環境整備】世帯数 前回：222,328世帯→今回：233,554世帯 5.0%増 【斐伊川水系自然再生】世帯数 前回： — 世帯→今回：283,857世帯 【米子港箇所水辺整備】世帯数 前回：47,533世帯→今回：48,682世帯 2.4%増 【木次箇所水辺整備】世帯数 前回：4,775世帯→今回：4,792世帯 0.4%増 【松江市役所前箇所水辺整備】世帯数 前回：54,974世帯→今回：57,712世帯 5.0%増 出典(前回)平成27年国勢調査→(今回)令和2年国勢調査</p>	変化なし <input type="checkbox"/>	変化あり <input checked="" type="checkbox"/>
前回評価からの事業費・事業期間の増加			増加無し 10%以内増加 10%超え
事業費の増加	前回：全体事業費192.8億円→今回：全体事業費226.4億円 17.4%増加	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
事業期間の増加	前回：26ヶ年(2004年度(平成16年度)～2029年度(令和11年度)) →今回：33ヶ年(2004年度(平成16年度)～2036年度(令和18年度)) 26.9%増加	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
前回評価からの費用対効果分析に関する影響要因の変化等			
費用便益分析マニュアルに変更がない	前回評価(令和2年)からマニュアルの変更はない	変化なし <input checked="" type="checkbox"/>	変更あり <input type="checkbox"/>
需要量の変化(需要量等の減少が10%以内)	<p>【中海・宍道湖水環境整備】世帯数 前回：222,328世帯→今回：233,554世帯 5.0%増 【斐伊川水系自然再生】世帯数 前回： — 世帯→今回：283,857世帯 【米子港箇所水辺整備】世帯数 前回：47,533世帯→今回：48,682世帯 2.4%増 【木次箇所水辺整備】世帯数 前回：4,775世帯→今回：4,792世帯 0.4%増 【松江市役所前箇所水辺整備】世帯数 前回：54,974世帯→今回：57,712世帯 5.0%増 出典(前回)平成27年国勢調査→(今回)令和2年国勢調査</p>	10%以下 <input checked="" type="checkbox"/>	10%超え <input type="checkbox"/>
下記のうち、一方もしくは両方を満たしている ・事業費に比して費用対効果分析に要する費用が大きい ・前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている	直近3ヶ年の事業費の平均に対する分析費用1.9% > 基準値(1.0%) 前回評価時の感度分析下位ケース 1.2 ≥ 基準値(1.0)	満足している <input checked="" type="checkbox"/>	満足していない <input type="checkbox"/>
※前回評価(R2) 前回評価で費用対効果分析を省略していない		省略していない <input checked="" type="checkbox"/>	省略している <input type="checkbox"/>
その他の事由(重点的な評価が必要な特別な事由)	特になし	—	

以上より、費用対効果分析を実施する。

2. 斐伊川の河川環境に関する目標

○河川環境の整備と保全に関する目標（斐伊川水系河川整備計画（国管理区間）抜粋）

（平成22年9月策定）

○整備の目標

斐伊川水系が生み出す特徴的で良好な河川・湖沼の環境及び景観の保全を図るとともに、多様な動植物が生息・生育・繁殖する豊かな自然環境の保全及び再生を目指します。

斐伊川本川、神戸川の流れのある水面が織りなす潤いと安らぎのある特徴的な水辺景観の保全を図り、豊かで多様な自然環境の再生に努めます。

また、連結汽水湖が生み出す独特な汽水環境の保全・再生を図り、豊かで多様な景観と自然環境の再生を目指すとともに、関係機関と連携を図りつつ、環境基準を満たすように水質改善に努めます。

○河川環境の整備と保全

河川環境のモニタリングとして日常からの河川巡視による監視や河川水辺の国勢調査、その他の環境調査により、情報把握に努めるとともに、必要に応じて動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・改善を図ります。

また、河川毎、区間毎の特性、地域のニーズ等を踏まえた良好な河川空間の保全に努めます。

—以下省略—

3. 斐伊川総合水系環境整備事業(全体)の事業箇所と内容

事業の全体延長と事業実施状況

評価区分	分類	河川名	事業名	市	事業年度	事業内容	事業費 (百万円)
再評価	水環境	中海 宍道湖	① 中海・宍道湖 水環境整備	米子市、境港市、 松江市、出雲市、 安来市	2004年度(平成16年度) ～2029年度(令和11年度) 予定	(国) 浅場整備、覆砂	17,128
	自然 再生	斐伊川 神戸川 中海 宍道湖	② 斐伊川水系 自然再生	米子市、境港市、 松江市、出雲市、 安来市	2023年度(令和5年度) ～2036年度(令和18年度) 予定	(国) 掘削、ワンド・たまり整備、 浅場整備、覆砂等	3,283
	水辺 整備	中海	③ 米子港箇所 水辺整備	米子市	2020年度(令和2年度) ～2028年度(令和10年度) 予定	(国) 親水護岸 (県) 棧橋 (市) 遊覧船発着場	862 (国530、県330、市2)
		斐伊川	④ 木次箇所 水辺整備	雲南市	2020年度(令和2年度) ～2028年度(令和10年度) 予定	(国) 親水護岸、河川管理用通路、 高水敷整正 (市) 案内サイン・ベンチ等の設置	334 (国296、市38)
		大橋川	⑤ 松江市役所前箇所 水辺整備	松江市	2021年度(令和3年度) ～2029年度(令和11年度) 予定	(国) 親水護岸、河川管理用通路 (市) 公園整備	1,037 (国716、市322)



4. ① 中海・宍道湖水環境整備

① 中海・宍道湖水環境整備（2004年度（平成16年度）～2029年度（令和11年度）予定）

整備目的：沿岸域における自然の浄化機能を回復するために浅場整備を行う。また、湖底の汚濁底泥からの栄養塩溶出抑制や生物の生息環境を回復するために覆砂を行う。

整備内容：（国）浅場整備、覆砂

進捗状況：進捗率 約95%（事業費ベース、令和4年度末予定）

事業進捗の見込み：事業進捗を図る上で支障はない。

① 中海・宍道湖水環境整備（宍道湖の事業量）

全整備延長L=約7.5km
残整備延長L=約0.2km

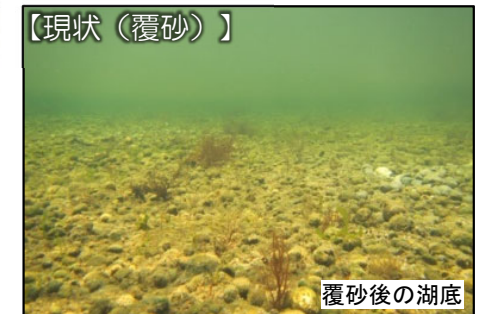
（中海の事業量）

全整備延長L=約14.4km
残整備延長L=約2.9km

※R3年度末時点

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
浅場整備	[Progress bar from H16 to R7]																									
覆砂																										
モニタリング等	[Progress bar from H16 to R11]																									

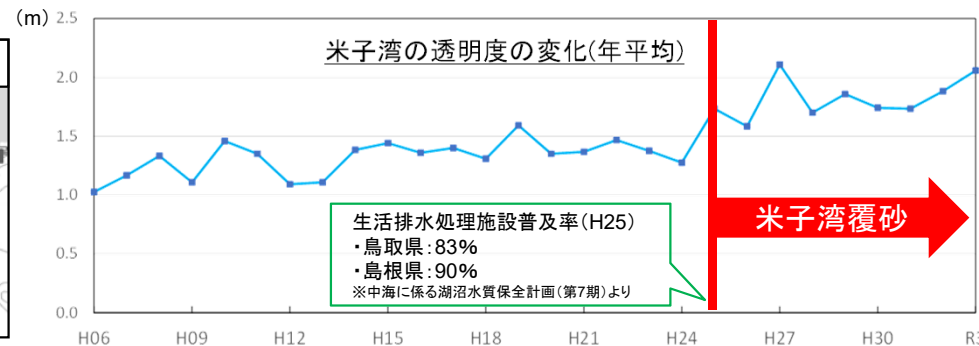
(完了箇所を白)



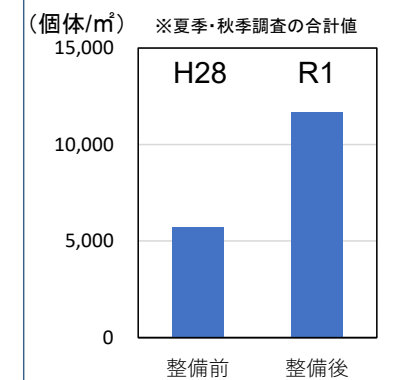
整備効果

■宍道湖の林地区では、浅場整備により主要二枚貝が増加しており、自然浄化機能が向上している。

■中海の米子湾は、覆砂の実施により底質から栄養塩（窒素・りん）の溶出が抑制されるとともに、透明度も向上している。



宍道湖林地区の主要二枚貝（ヤマトシジミ）の変化



5. ② 斐伊川水系自然再生の経緯

(斐伊川水系の生態系ネットワーク形成に向けた機運の高まり)

新たな整備予定箇所

- ・持続可能で魅力ある地域づくりを進めるために、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの推進が重要。
- ・また、斐伊川流域は、国内有数のハクチョウ類、マガン、ヒシクイ、カモ類の飛来地となっているが、中海及び宍道湖のラムサール条約登録後、大型水鳥類の確認数が減少傾向にあること、地域におけるコウノトリの生息環境の整備やトキの野生復帰検討の状況を踏まえ、河川を基軸とした大型水鳥類の生息地確保及びそれらを活用した地域振興を目的に、流域の関係機関・専門家等で構成する「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」（以下、「協議会」という。）が設立され、令和2年1月に「斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想」が作成された。
- ・大型水鳥類の生息地となるねぐら、餌場等は、同時に多様な生態系の土台を支える環境基盤であり、これらの環境基盤が劣化している箇所において、大型水鳥類をシンボルとした自然再生を図り、今後、地域の魅力や活力の向上にもつなげていくことが重要である。

【グリーンインフラ】

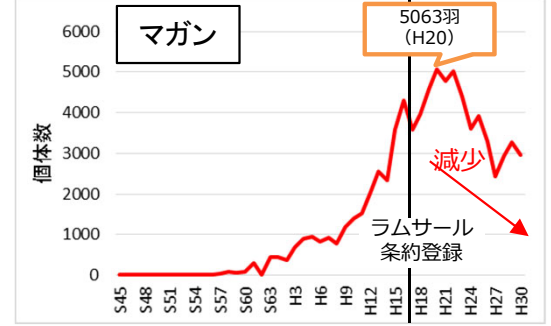
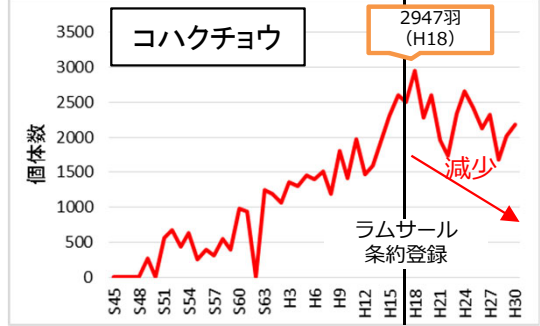
- ・自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの推進が重要となっている。



【主な水鳥の飛来数の減少】

- ・ラムサール条約登録前後をピークに減少傾向にある種が多い。
(平成30年度はピーク時と比較して、コハクチョウは約760羽、マガンは約2100羽減少)
- ・減少要因は明確でないが、ねぐら、餌場等としての河川環境の悪化も一因と考えられる。

◆ 主な水鳥の確認数の変化



【斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想】

- ・大型水鳥類と共に生きる魅力的な流域づくりを目指し、全体構想に基づき関係機関等を連携しながら取り組むこととしており、河川管理者としては大型水鳥類の生息に適した河川環境基盤の再生が必要となっている。

【中期目標（～2035年）】

全体構想の一部抜粋

- 生息環境づくり
- ・ハクチョウ類、ガン類の越冬個体群について、**ねぐらや採食地の保全・再生に向けた取り組みをさらに進め、外敵の侵入などのかく乱に対しても、圏域全体で越冬個体群を安定して支えられる生息環境を確保**する。
- ・毎年数十羽単位以上のツル類が越冬し、周辺水田などで採食している姿が見られるよう、ナベヅル、マナヅルにとって**好適なねぐら環境を流域全体で一か所以上確保**する。

- 地域づくり ～貴重な自然環境の価値を基礎として、経済を發展させる～
- ・生物多様性保全型の農業を自治体各地で進め、圏域自治体やJA等の連携のもと流通・販売体制を整備する。
- ・指標大型水鳥類の生息環境づくりに資する農産物や加工品の商品開発を進め、生態系ネットワークの取り組みの知名度を高める。
- ・大型水鳥類をシンボルとした自然景観を観光資源としたツアーガイドを養成する体制をつくる。

【地域の取り組み事例】

- ・コウノトリの餌場となる水田の土水路管理



(雲南市より提供)

5. ② 斐伊川水系自然再生の現状と課題

新たな整備予定箇所

- 斐伊川本川下流域：過去の低水路整備にともなう網状流路の縮小により、ワンド・たまりの役割を果たしてきた低水路が減少し、高水敷化した河岸の樹林化による良好な水際域の減少がみられる。
- 宍道湖・中海：過去の埋め立て等による湖岸の人工化により、浅場の減少がみられる。
- 神戸川：河床低下等によりワンド・たまりや瀬の減少がみられる。



【課題】植物、魚類、底生生物、大型水鳥類等の生息できる環境基盤（ハビタット）が減少

【斐伊川本川】

■ 低水路の減少、河岸の樹林化

1947(S22)

2018(H30)

低水路の減少

網状流路が縮小し、河岸部は樹林化

灘橋

■ 影響を受ける主な生物種

コハクチョウ

ハンゲショウ

【宍道湖・中海】

■ 埋め立ての進行 (S22→H30)

宍道湖

中海

■ 浅場面積の変化

水深 (m)	1950年頃 (ha)	2015年頃 (ha)
1m未満	~500	~100
1~2m	~1000	~500
2~3m	~1500	~1000
3~4m	~2000	~1500
4~5m	~2500	~2000
5m以上	~3000	~2500

1mより浅い箇所での減少が顕著

2mより浅い箇所での減少が顕著

■ アマモ場の変化

2004-05年

● アマモ自生地

● コアマモ自生地

アマモ

出典：第7回斐伊川河川整備懇談会資料（平成22年5月、出雲河川事務所）

【神戸川】

■ ワンドの減少

1962 (S37)

砂州が形成され、ワンドも存在

2019(H31)

砂州がみられず、ワンドが一部現存

■ 影響を受ける主な生物種

ミナミメダカ

キイロサナエ

5. ② 斐伊川水系自然再生の目標

新たな整備予定箇所

国土を整え、全力で備える
国土交通省
中国地方整備局

- ・劣化した河川環境基盤の再生による多様な動植物の生育・生息・繁殖場を確保し、「斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想」の短期目標（～2025年）及び中期目標（～2035年）の達成に向けた大型水鳥類が利用できる環境を創出する。
- ・また、協議会を通じ、関係機関と連携した流域単位での環境整備等の推進により大型水鳥類の安定的な生息を目指し、地域振興や経済の発展等につなげていく。

【斐伊川水系自然再生】

- ・劣化した河川環境基盤の再生



整備イメージ

【観光振興】

- ・大型水鳥類の観察を組み込んだ観光ツアーの催行（斐伊川河口の例）




斐伊川水系水鳥プロジェクト ～生態系ネットワークの形成～

【農地環境の改善】

- ・冬期湛水水田で採食するハクチョウ類



【農作物のブランド化】

- ・ブランド米の栽培



(雲南市より提供)

【環境学習】

- ・小学校による生き物調査



(雲南市立西小学校より提供)

5. ② 斐伊川水系自然再生の整備内容

新たな整備予定箇所

② 斐伊川水系自然再生（2023年度（令和5年度）～2036年度（令和18年度）予定）

整備目的：大型水鳥類が利用でき、維持可能で環境変化に強い生態系の場となるハビタットを形成する。

整備内容：（国）掘削、ワンド・たまり整備、浅場整備、覆砂等

事業進捗の見込み：斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想に基づき、関係機関等と連携を図りつつ事業を進めていく予定であり、今後の事業進捗を図る上で支障はない。

- （斐伊川本川の事業量）掘削、ワンド・たまり整備 L=約10km
- （神戸川の事業量）ワンド整備、水制工等 L=約12km
- （中海・宍道湖の事業量）浅場整備・覆砂 N=約10箇所

※実施にあたっての現地調査結果や専門家の意見等を踏まえ、整備内容等を見直す可能性がある



【整備前】

《 斐伊川・神戸川における整備 》

河岸部は樹林帯となっており、砂地や良好な水際域はほとんど存在しない

2019(R1)

砂地、良好な水際域、ワンド・たまりが少なく、様々な動植物が生息しにくい。

河岸部の樹林帯

【整備後（イメージ）】

掘削等によりワンド・たまりを再生

ワンド・たまりは多様な動植物の生育の場となり、大型水鳥類の餌場が確保される。樹林の除去により良好な水際域が再生され、ねぐらが確保される。

《 宍道湖・中海における整備 》

アマモ場等の沈水植物群落も減少し、水生生物の生育、生息、繁殖環境が劣化

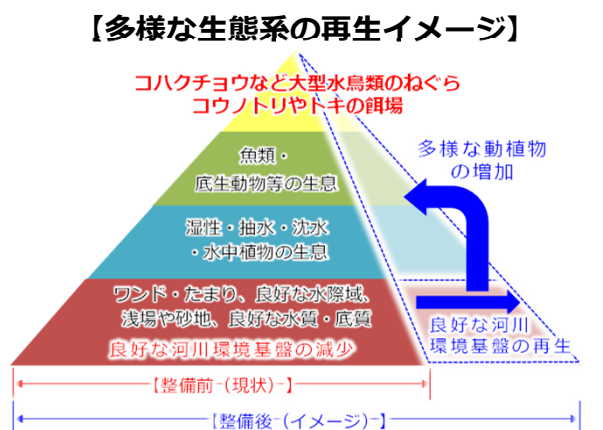
湖岸付近では波が発生しやすく、動植物が生息しにくい。

浅場を整備し、アマモ場等の沈水植物群落を再生

汚れた泥を砂などで覆うことで汚れの溶け出しがなくなり、水がきれいになる

浅場整備により、アマモ場等の沈水植物群落が再生し、大型水鳥類の餌場やねぐらになる。また、水質改善にも寄与する。

- 【期待される自然再生の効果】
- 河川環境基盤の再生により多様な動植物の生育・生息・繁殖場を確保
 - 大型水鳥類のねぐら・餌場となる河川環境が回復・保全・維持
 - ワンドやたまりは自然観察や環境学習の場として利用
 - 宍道湖・中海の水質が改善され、砂浜の形成により水辺へ近づきやすくなる
 - 大型水鳥類をターゲットとした県内外からの観光客増加により地域振興の活性化に寄与



6. ③米子港箇所水辺整備

③米子港箇所水辺整備（2020年度（令和2年度）～2028年度（令和10年度）予定）

整備目的：親水護岸や芝生広場等を整備することで、新たな水辺の賑わいを創出する。

整備内容：（国）親水護岸、（県）栈橋、（市）遊覧船発着場

進捗状況：進捗率 約71%（事業費ベース、令和4年度末予定）

事業進捗の見込み：事業進捗を図る上で支障はない。



かわまちづくり計画の概要

- ソフト施策
 - ・水上アクティビティの実施（市）
 - ・環境保全活動の実施（市）
 - ・親水護岸背後地の利活用の検討（市）
 - ・加茂川・中海遊覧船の新たな発着場の設定（市）
 - ・芝生広場の利活用促進（市）
 - ・街歩き周遊コースの設定と利用促進（市）
- ハード整備
 - ・親水護岸の整備（国）
 - ・栈橋等の整備（県）
 - ・遊覧船発着場整備、芝生広場の整備（市）
 - ・駐車場及び駐輪場の整備、歩道の整備（市）

●ハード整備
・案内看板等の整備（市）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
親水護岸（国）		■	■	■	■				
栈橋（県）	■	■	■						
遊覧船発着所（市）			■		■				
モニタリング等	（基本設計）		■			■	■	■	（完了箇所評価）



【整備後（イメージ）】

遊覧船発着場（市）
栈橋（県）
親水護岸（国）

横断面図

正面図

←スロープ

・水面に近づきやすく、カヌーなどが発着できる親水護岸等を整備する。

7. ④木次箇所水辺整備

きすき

④木次箇所水辺整備（2020年度（令和2年度）～2028年度（令和10年度）予定）

整備目的：親水護岸、河川管理用通路の整備や高水敷整正を行うことにより、水辺空間を効率的に巡視することができるほか、回遊性の向上や賑わい・交流の拠点となる水辺空間を創出することにより、水辺とまちとの一体的な利用が可能となる。

事業内容：（国）親水護岸、河川管理用通路、高水敷整正、（市）案内サイン・ベンチ等の設置

進捗状況：進捗率約33%（事業費ベース、令和4年度末予定）

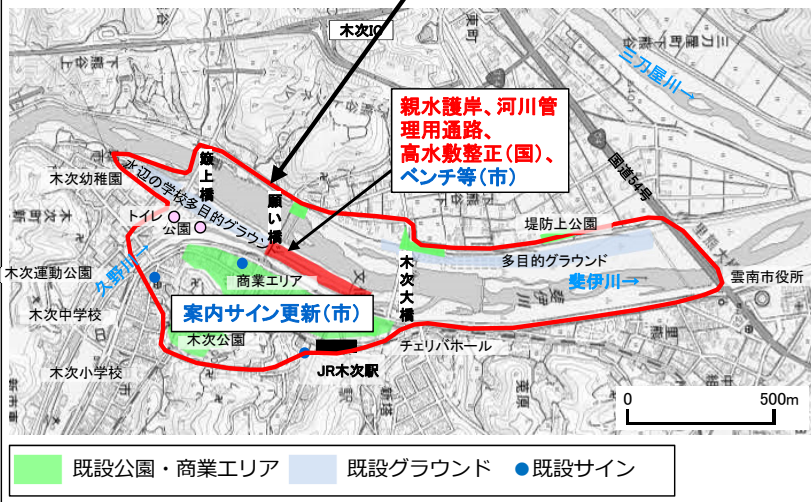
事業進捗の見込み：事業進捗を図る上で支障はない。



	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
親水護岸(国)		■	■	■					
河川管理用通路(国)		■	■	■					
高水敷整正(国)		■	■	■					
案内サイン・ベンチ等の設置(市)			■	■	■				
モニタリング等	(基本設計)		■	■		■	■	■	(完了箇所評価)

かわまちづくり計画の概要

- ソフト施策
 - ・ウォーキング・ジョギングイベントの開催（市）
 - ・野外イベントの開催（市）
 - ・水上スポーツ（カナディアンカヌー、SUP）の振興（市）
 - ・環境美化活動（斐伊川一斉清掃、花いっぱい運動）の展開（市）
- ハード整備
 - ・親水護岸、河川管理用通路の整備（国）・高水敷整正（国）
 - ・ベンチ等の休憩場所の整備（市）・案内サインの更新（市）



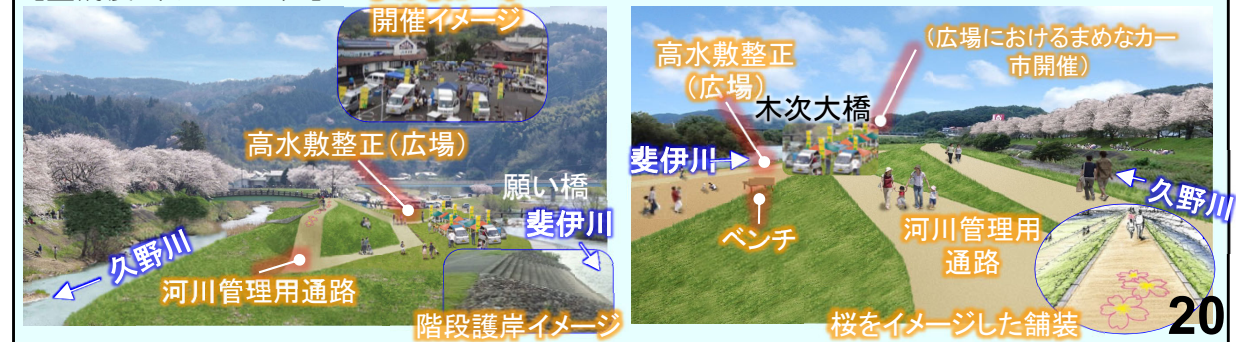
【整備前の状況】



【現状】



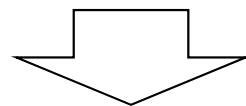
【整備後（イメージ）】



令和4年11月頃から
親水護岸に本格着工

【前回評価時（令和2年度再評価）】

- ・総事業費：1.39億円
- ・事業期間：2020年度（令和2年度）～2028年度（令和10年度）



【今回評価時（令和4年度再評価）】

- ・総事業費：**3.34**億円
- ・事業期間：2020年度（令和2年度）～2028年度（令和10年度）

■事業費の増加理由

「木次地区斐伊川かわまちづくり協議会」において議論した結果、以下3点の理由により、工事費が増加している。

①斐伊川側の階段護岸、久野川側の階段工の追加

親水性を確保するため、捨石根固工の一部を階段護岸に変更並びに階段工を追加し、水辺に近づきやすくした。

②景観に配慮した舗装への変更

「日本さくら名所百選」にも認定された中国地方随一の桜の名所であることから、堤防天端舗装は桜をイメージしたコンクリートカラー舗装に変更し、景観に配慮した。

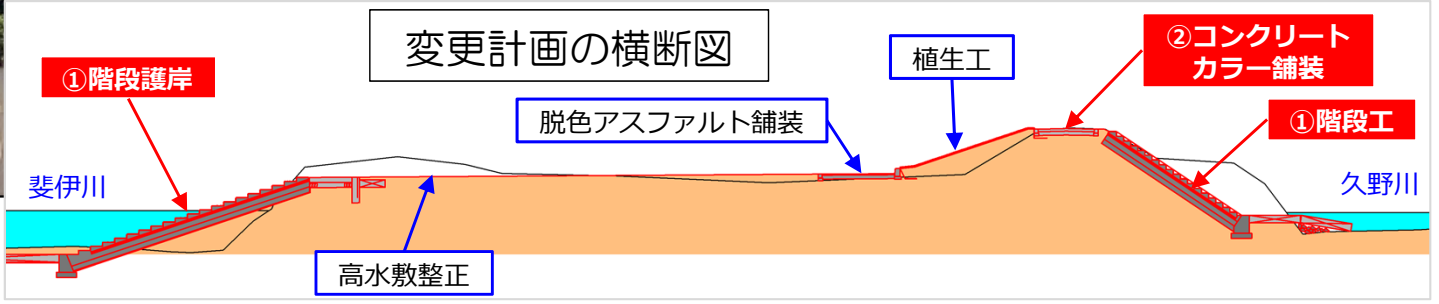
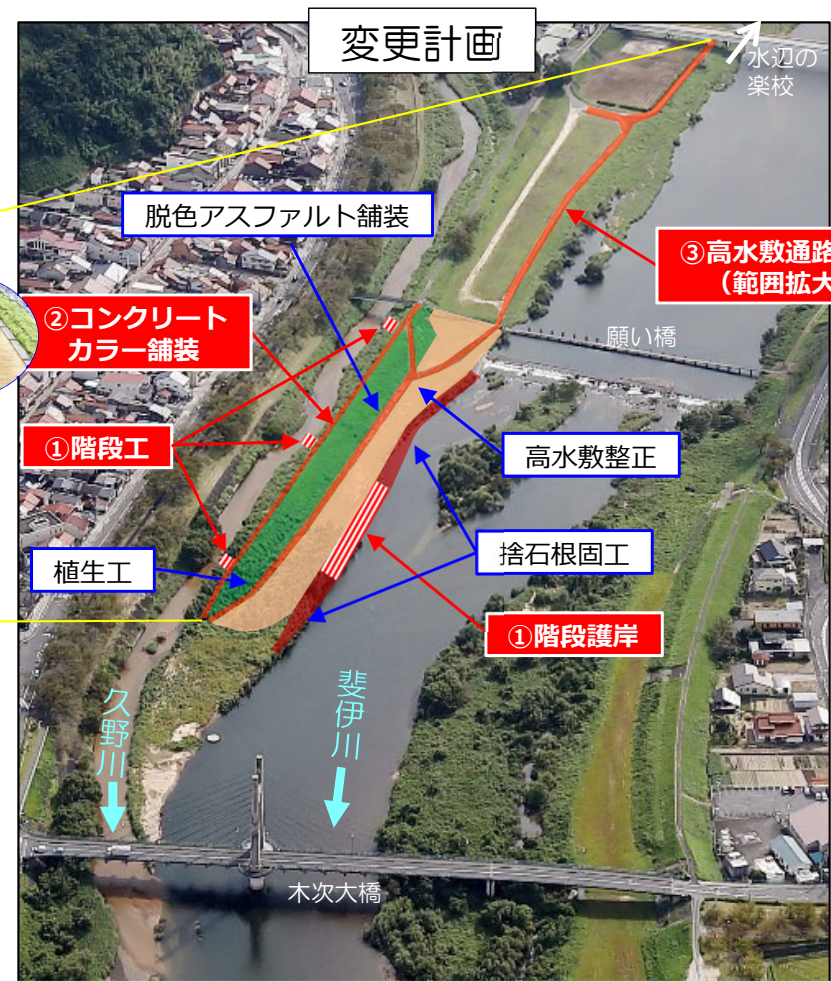
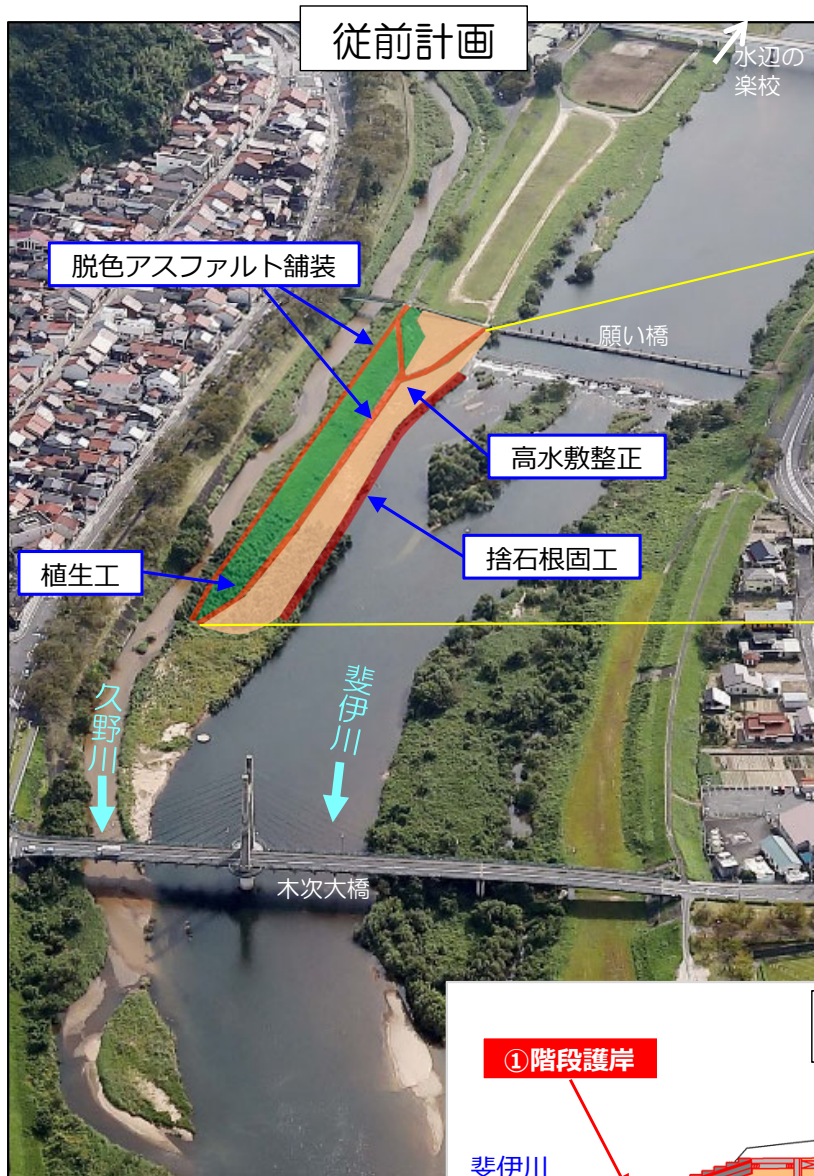
③高水敷通路舗装の範囲拡大

「まち」から「かわ」への回遊性を更に高めるため、上流の水辺の楽校まで高水敷通路舗装の範囲を拡大した。

7. ④木次箇所水辺整備の事業費増加

- ①親水性を確保するため、斐伊川の捨石根固工の一部を階段護岸に変更、久野川側に階段工を追加
- ②景観に配慮して堤防天端を脱色アスファルト舗装からコンクリートカラー舗装へ変更
- ③上流の水辺の楽校との連続性を確保し「まち」との回遊性を高めるため通路舗装の範囲を拡大

約 1.95億円の増加



8. ⑤松江市役所前箇所水辺整備

⑤松江市役所前箇所水辺整備（2021年度（令和3年度）～2029年度（令和11年度）予定）

整備目的：親水広場や芝生広場、親水護岸等を整備し水辺の賑わいやまちあるき動線を創出する。

事業内容：（国）親水護岸、河川管理用通路、（市）公園整備

進捗状況：進捗率 約30%（事業費ベース、令和4年度末予定）

事業進捗の見込み：事業進捗を図る上で支障はない。



	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
親水護岸(国)									
河川管理用通路(国)									
基盤整備(国)									
公園整備(市)									
モニタリング等	(基本設計)								(完了箇所評価)

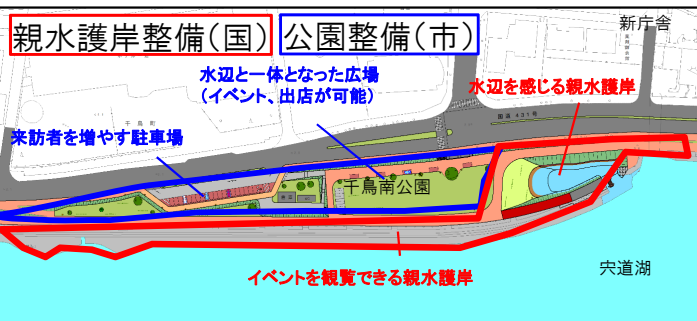
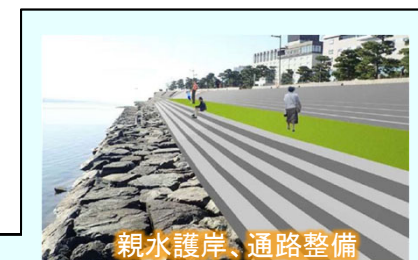
かわまちづくり計画の概要

●ソフト施策

- ・都市・地域再生等利用区域の指定（国）
- ・地域活性化に資する水辺利用の充実（市）

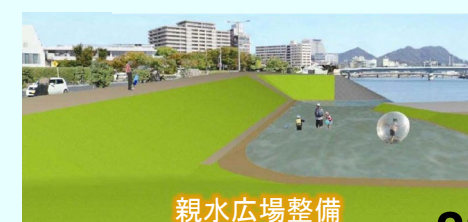
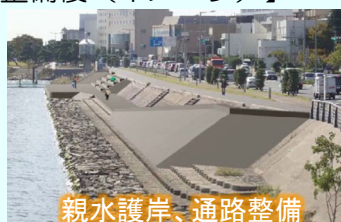
●ハード整備

- ・親水護岸の整備（国）
- ・河川管理用通路の整備（国）
- ・公園整備（市）



※イメージ図は設計進捗により変更となる場合がある。

【整備後（イメージ）】



9. 費用対効果分析結果(総括表)

●費用便益比総括表

■全体事業：事業期間（2004年度（平成16年度）～
2036年度（令和18年度）予定）

- 【水環境】 ①中海・宍道湖水環境整備
【自然再生】 ②斐伊川水系自然再生
【水辺整備】 ③米子港箇所水辺整備
④木次箇所水辺整備
⑤松江市役所前箇所水辺整備

■残事業：事業期間（2023年度（令和5年度）～
2036年度（令和18年度）予定）

- 【水環境】 ①中海・宍道湖水環境整備
【自然再生】 ②斐伊川水系自然再生
【水辺整備】 ③米子港箇所水辺整備
④木次箇所水辺整備
⑤松江市役所前箇所水辺整備

斐伊川総合水系環境整備事業

金額単位：百万円

項目	再評価											
	全体事業						残事業					
		① 水環境	② 自然再生	③ 米子港	④ 木次	⑤ 松江市役所前		① 水環境	② 自然再生	③ 米子港	④ 木次	⑤ 松江市役所前
便益 (B)	57,760	31,299	17,927	3,878	375	4,281	27,327	874	17,927	3,872	375	4,279
便益	57,742	31,299	17,927	3,871	373	4,273	27,318	874	17,927	3,871	373	4,273
残存価値	18	0	0	7	3	8	10	0	0	1	2	6
費用 (C)	33,562	28,702	2,642	876	329	1,013	4,622	736	2,642	296	223	725
建設費	32,955	28,571	2,375	795	298	916	4,146	736	2,375	215	193	627
維持管理費	607	131	267	81	30	98	476	0	267	81	30	98
費用便益比 (B/C)	1.7	1.1	6.8	4.4	1.1	4.2	5.9	1.2	6.8	13.1	1.7	5.9

- ・社会的割引率（4%）及び治水経済デフレーターにより、現在価値化した値
- ・消費税相当分の除外が必要な項目は、税相当分を除外
- ・B/Cは小数第二位、それ以外は小数第一位で四捨五入している。
- ・合計欄は、表示桁数の関係で単純計算と一致しない場合がある。

9. 費用対効果分析結果(感度分析)

- 残事業費、残工期、便益を個別に±10%変動させて、費用便益比（B/C）を算定し、感度分析を行った。

＜B/C算定ケース（基本1ケース、感度分析6ケース）＞

	基本	残事業費		残工期		便益	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
全体事業 費用便益比 (B/C)	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.9	1.5
残事業 費用便益比 (B/C)	5.9	5.4	6.5	5.9	6.0	6.5	5.3

10. 今後の対応方針(原案)

1. 再評価の視点

①事業の必要性等の視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・事業箇所周辺の松江市、出雲市、安来市、雲南市、米子市、境港市等の人口・世帯数に大きな変化はみられない。
- ・自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの推進が重要となっている。また、斐伊川水系における河川を基軸とした大型水鳥類の生息地確保及びそれらを活用した地域振興を目的に斐伊川水系生態系ネットワーク協議会が設立され、令和2年1月に「斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想」が作成された。環境基盤が劣化している河川において、大型水鳥類をシンボルとした自然再生を図り、今後、地域の魅力や活力の向上にもつなげていくことが重要となっている。

2) 事業の投資効果

- ・費用便益比 全体事業 (B/C) 1.7 残事業 (B/C) 5.9

3) 事業の進捗状況

- ・自然再生は、今後進捗を図っていく。
- ・水環境整備は、中海・宍道湖において実施しており、進捗率は約95% (事業費ベース、令和4年度末予定)。
- ・水辺整備の進捗率は、米子港箇所約71%、木次箇所約33%、松江市役所前箇所約30% (事業費ベース、令和4年度末予定)。

②事業の進捗の見込みの視点

- 《中海・宍道湖水環境整備》浅場整備、覆砂の施工とあわせて、現地の状況や効果についてモニタリングを実施しており、支障は確認されていない。
- 《斐伊川水系自然再生》斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想に基づき、関係機関等と連携を図りつつ整備を進めていく予定であり、事業進捗を図る上で支障はない。
- 《米子港箇所水辺整備》親水護岸、棧橋 (県)、遊覧船発着場 (市) 等の整備を順次実施しており、事業進捗を図る上で支障はない。
- 《木次箇所水辺整備》河川管理用通路、高水敷整正、休憩施設等 (市) の整備を順次実施しており、事業進捗を図る上で支障はない。
- 《松江市役所前箇所水辺整備》親水護岸、河川管理用通路等の整備を順次実施しており、事業進捗を図る上で支障はない。

③コスト縮減や代替案立案の可能性

- ・中海・宍道湖水環境整備は、斐伊川の維持掘削で発生する土砂等の建設発生土を浅場整備、覆砂材料として利用し、コスト縮減を行った。
- ・斐伊川水系自然再生にあたっては、斐伊川本川での掘削土砂を中海・宍道湖への浅場整備に利用するなど、コスト縮減に努める予定。
- ・水辺整備にあたっては、除草作業や清掃など地域住民との協力体制を確立することによりコストの縮減に努める。

2. 県への意見照会結果

- ・鳥取県知事の意見：異存なし
- ・島根県知事の意見：異存なし

【今後の対応方針 (原案)】 (案)

- ・以上より、事業の必要性、費用対効果、地元の協力体制を鑑み、**事業継続することは妥当**と考える。
- ・今後の事業の実施にあたっては、引き続き地域住民等と協力するとともに、コスト縮減に取り組み、効率的かつ効果的な事業の執行に努める。

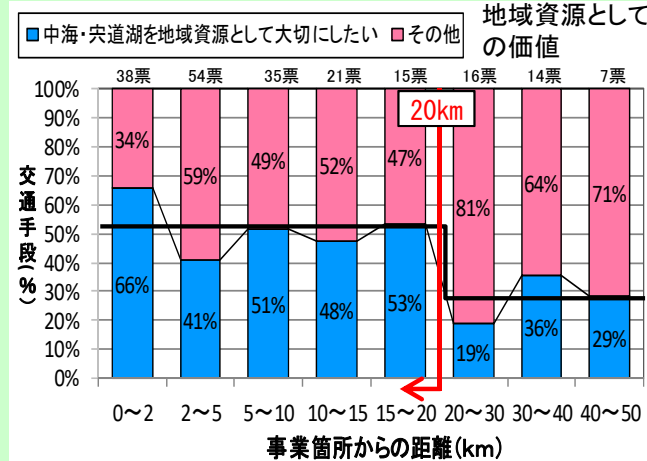
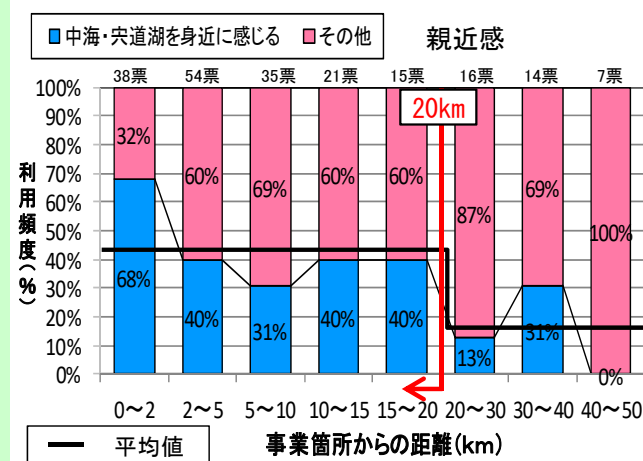
【参考1】 前回評価時との比較

事項	時 点		備考
	前回評価（令和2年度再評価）	今回評価（令和4年度再評価）	
事業諸元 及び 事業期間	<p>【水環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中海・宍道湖水環境整備事業：実施中 2004年度（H16年度）～2029年度（R11年度）予定 浅場整備、覆砂 	<p>【水環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中海・宍道湖水環境整備事業：実施中 2004年度（H16年度）～2029年度（R11年度）予定 浅場整備、覆砂 	
	<p>【自然再生】</p>	<p>【自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斐伊川水系自然再生：計画中 2023年度（R5年度）～2036年度（R18年度）予定 掘削、ワンド・たまり整備、浅場整備、覆砂等 	自然再生を追加
	<p>【水辺整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕日ヶ丘箇所水辺整備：実施中 2016年度（H28年度）～2023年度（R5年度）予定 親水護岸、河川管理用通路、階段 ・米子港箇所水辺整備：実施中 2020年度（R2年度）～2028年度（R10年度）予定 （国）親水護岸 （県）棧橋（市）遊覧船発着場 ・木次箇所水辺整備：実施中 2020年度（R2年度）～2028年度（R10年度）予定 （国）河川管理用通路、高水敷整正 （市）案内サイン・ベンチ等の設置 ・松江市役所前箇所水辺整備：計画中 2021年度（R3年度）～2029年度（R11年度）予定 （国）親水護岸、河川管理用通路 （市）公園整備 	<p>【水辺整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米子港箇所水辺整備：実施中 2020年度（R2年度）～2028年度（R10年度）予定 （国）親水護岸 （県）棧橋（市）遊覧船発着場 ・木次箇所水辺整備：実施中 2020年度（R2年度）～2028年度（R10年度）予定 （国）親水護岸、河川管理用通路、高水敷整正 （市）案内サイン・ベンチ等の設置 ・松江市役所前箇所水辺整備：実施中 2021年度（R3年度）～2029年度（R11年度）予定 （国）親水護岸、河川管理用通路 （市）公園整備 	
全体事業費	192.8億円	226.4億円	
総便益（B）	362.3億円	577.6億円	
総費用（C）	279.2億円	335.6億円	
費用便益比 （B/C）	1.3	1.7	

● CVM (住民アンケートによる支払意思額の調査)

■ 調査範囲(アンケート配布範囲＝便益集計範囲)の設定

・H21に実施したCVMアンケートプレテストにおいて、中海・宍道湖への親近感や地域資源としての価値の割合は、20km以降で低下傾向が見られた。

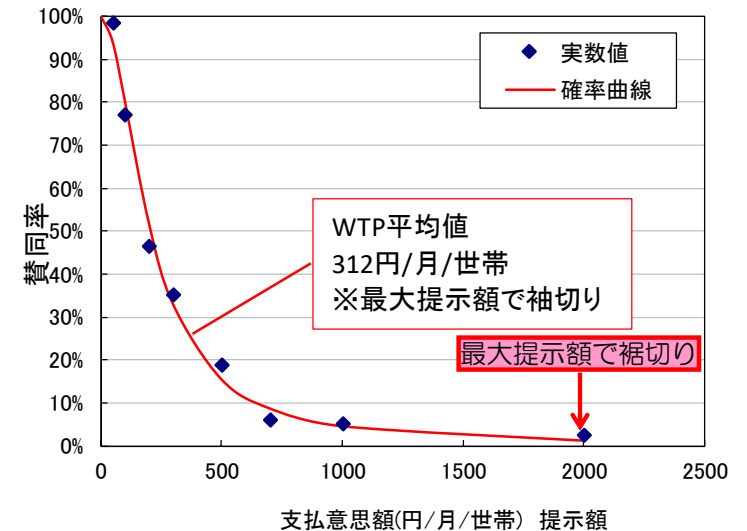


【アンケート回収率・有効回答率】

	中海・宍道湖水環境整備
実施年月	2018年7月
目標標本数	380
配布数	2,000
回収数	776
回収率	38.8%
有効回答数	589
有効回答率	75.9%

【支払意思額(全体事業)】

	今回評価(2020年度)
評価手法	CVM
支払意思額(全体事業)	312円/月/世帯数
受益世帯数	233,554世帯(R2国勢調査)
年便益	874.4百万円



(アンケート結果) ① 【水環境】中海・宍道湖水環境整備

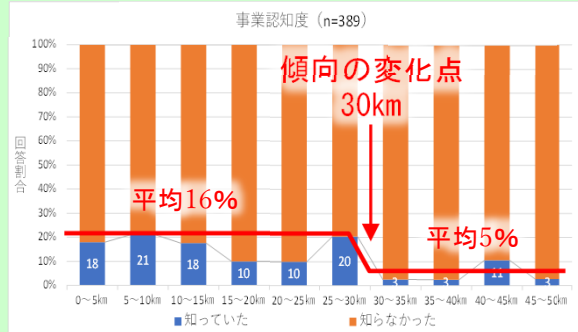
【全体事業】支払意思額 (WTP) = 312円/月/世帯、受益世帯数 233,554世帯
年便益 874.4百万円/年 (=312円/月/世帯×12ヶ月× 233,554世帯)

● CVM (住民アンケートによる支払意思額の調査)

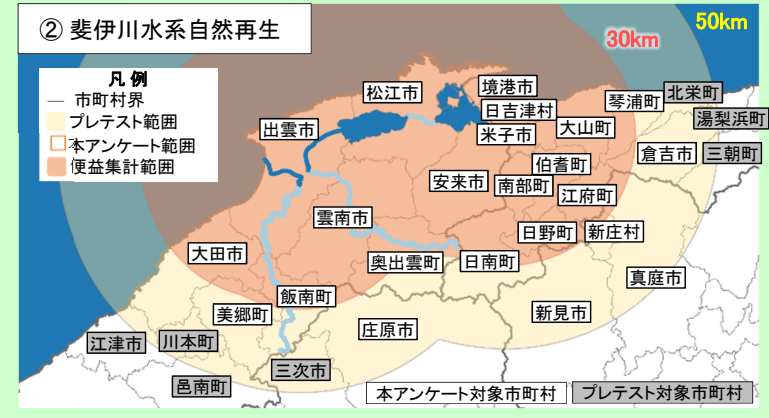
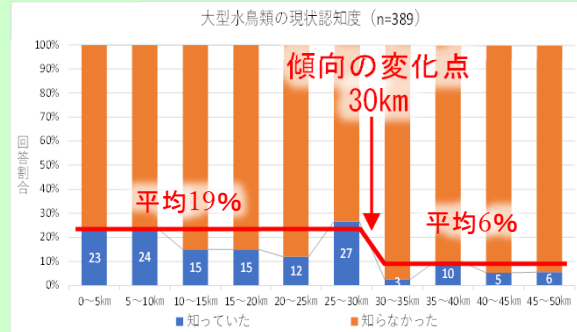
■ 調査範囲(アンケート配布範囲=便益集計範囲)の設定

・2022年(R4)に5月に実施したCVMアンケートプレテストにおいて、事業認知度、及び、大型水鳥類の現状に関する認知度について30kmと35kmの間に変化点が見られた。

自然再生事業の認知度



大型水鳥類の現状に関する認知度

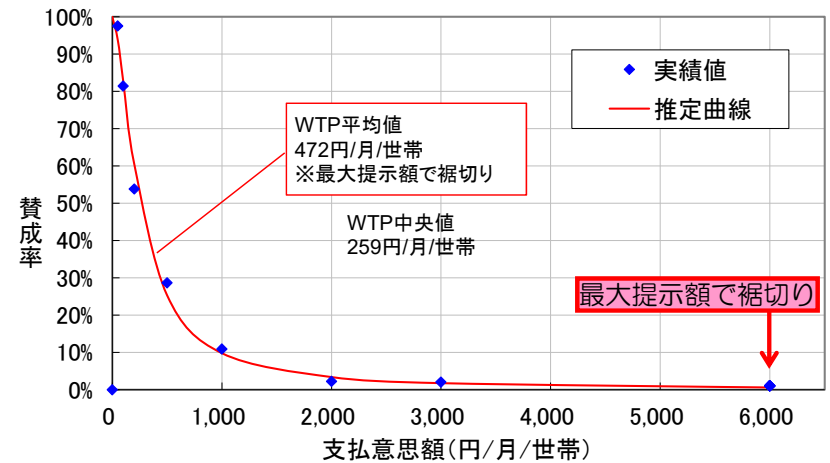


【アンケート回収率・有効回答率】

	斐伊川水系自然再生
実施年月	2022年7月
目標標本数	380
配布数	2,000
回収数	718
回収率	35.9%
有効回答数	496
有効回答率	69.1%

【支払意思額(全体事業)】

	今回評価 (2022年度)
評価手法	CVM
支払意思額 (全体事業)	472 円/月/世帯数
受益世帯数	283,857世帯 (R2国勢調査)
自然再生単独効果のウェイト	63.5%
年便益	1,021.9百万円



※自然再生単独効果のウェイト: 自然再生と水環境の便益集計範囲が一部重複することから、回答した負担金額に対して効果の割合を訊ね、水環境と類似する効果分を除いた割合のこと

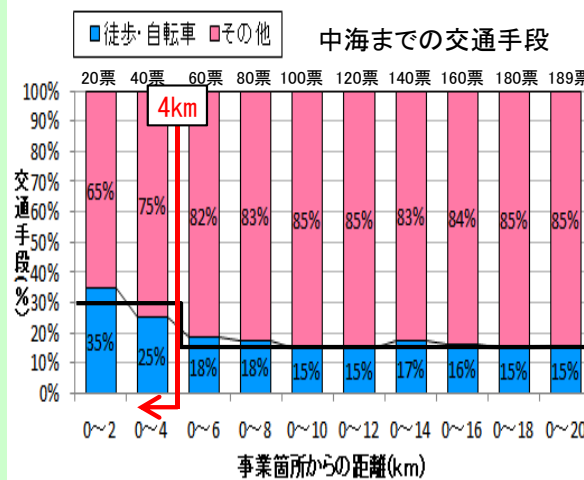
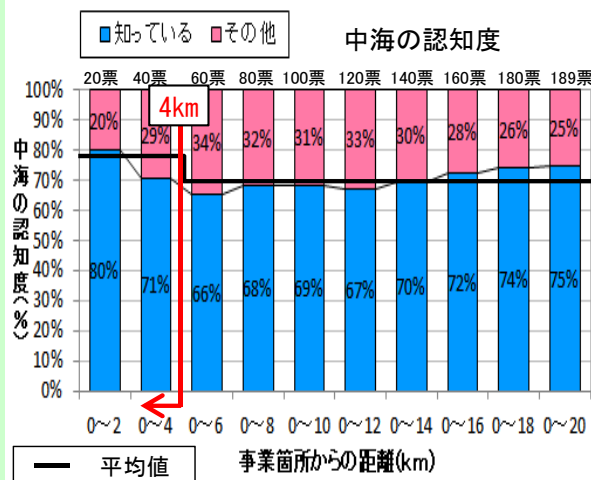
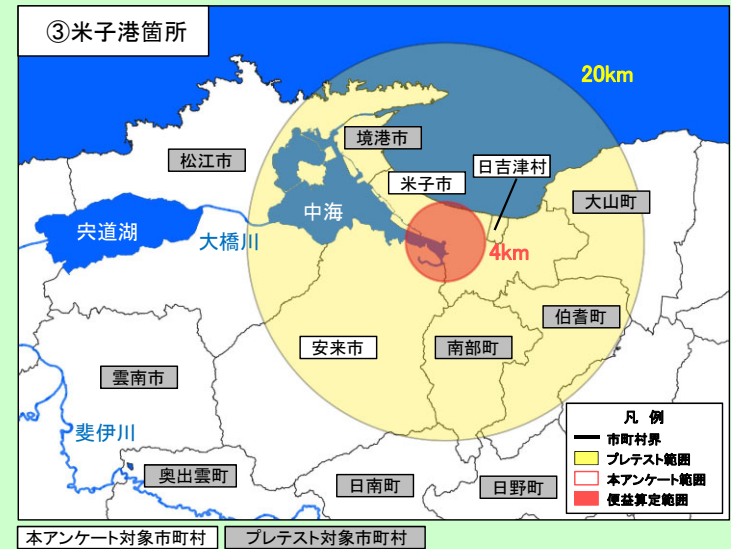
(アンケート結果) ② 【自然再生】斐伊川水系自然再生

【全体事業】支払意思額 (WTP) = 472円/月/世帯、自然再生単独効果のウェイト63.5%、受益世帯数 283,857世帯
年便益 1,021.9百万円/年 (=472円/月/世帯×12ヶ月×63.5%×283,857世帯)

● CVM (住民アンケートによる支払意思額の調査)

■ 調査範囲(アンケート配布範囲=便益集計範囲)の設定

・2019年(R1)に実施したCVMアンケートプレテストにおいて、中海の認知度、及び、中海までの交通手段の徒歩・自転車割合は、4km以降で低下傾向がみられた。

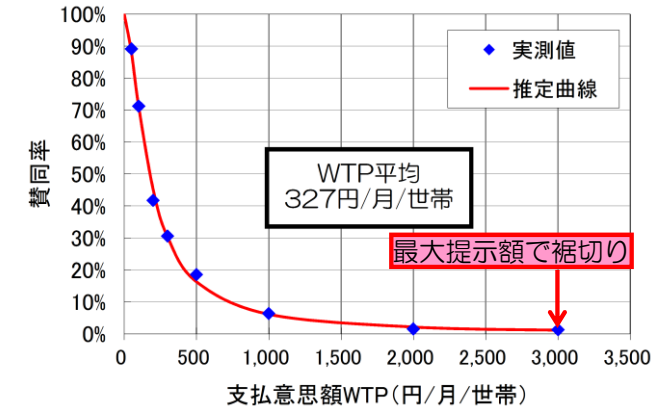


【アンケート回収率・有効回答率】

	米子港箇所 水辺整備
実施年月	2019年8月
目標標本数	381
配布数	2,000
回収数	696
回収率	34.8%
有効回答数	458
有効回答率	65.8%

【支払意思額(全体事業)】

	今回評価 (2022年度)
評価手法	CVM
支払意思額 (全体事業)	327 円/月/世帯数
受益世帯数	48,682世帯 (R2国勢調査)
年便益	191.0百万円



(アンケート結果) ③ 【水辺整備】 米子港箇所水辺整備

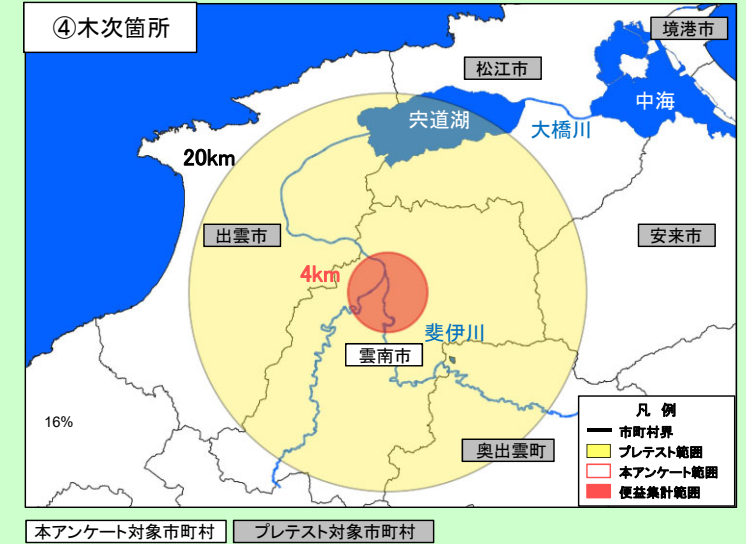
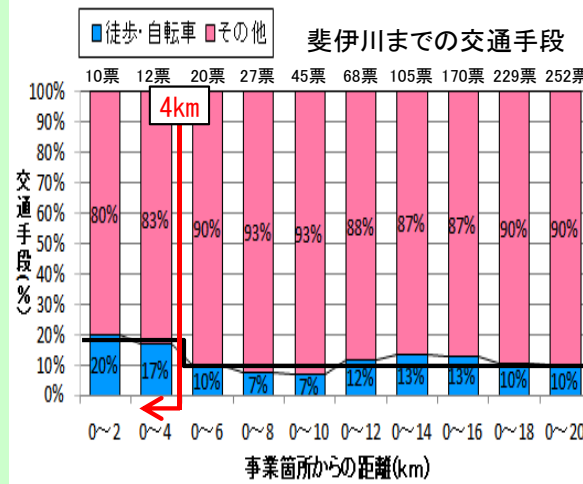
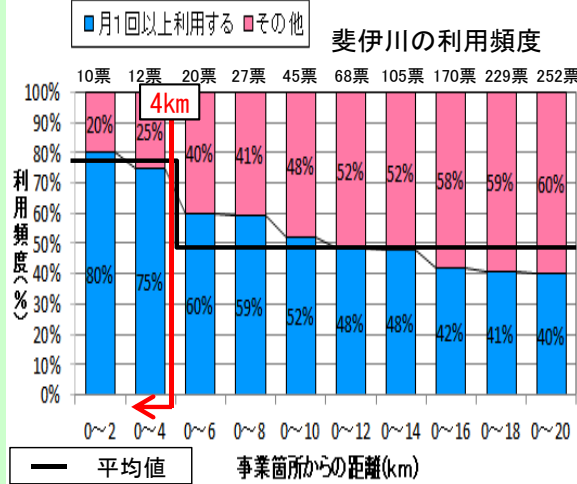
【全体事業】 支払意思額 (WTP) = 327円/月/世帯、受益世帯数 48,682世帯

年便益 191.0百万円/年 (=327円/月/世帯×12ヶ月×48,682世帯)

● CVM (住民アンケートによる支払意思額の調査)

■ 調査範囲(アンケート配布範囲=便益集計範囲)の設定

・2018年(R1年)に実施したCVMアンケートプレテストにおいて、斐伊川の利用頻度、及び、斐伊川までの交通手段の徒歩・自転車割合は、4km以降で低下傾向が見られた。

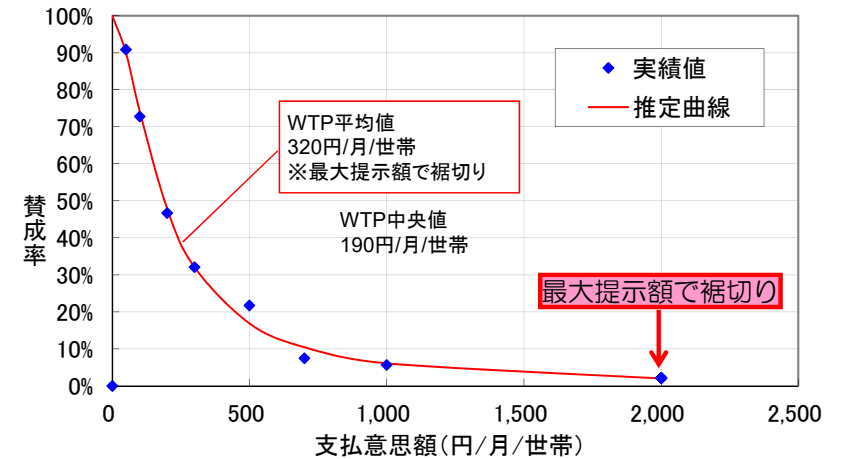


【アンケート回収率・有効回答率】

	木次箇所水辺整備
実施年月	2022年7月
目標標本数	356
配布数	2,000
回収数	932
回収率	46.6%
有効回答数	602
有効回答率	64.6%

【支払意思額(全体事業)】

	今回評価 (2022年度)
評価手法	CVM
支払意思額 (全体事業)	320 円/月/世帯数
受益世帯数	4,792世帯 (R2国勢調査)
年便益	18.4百万円



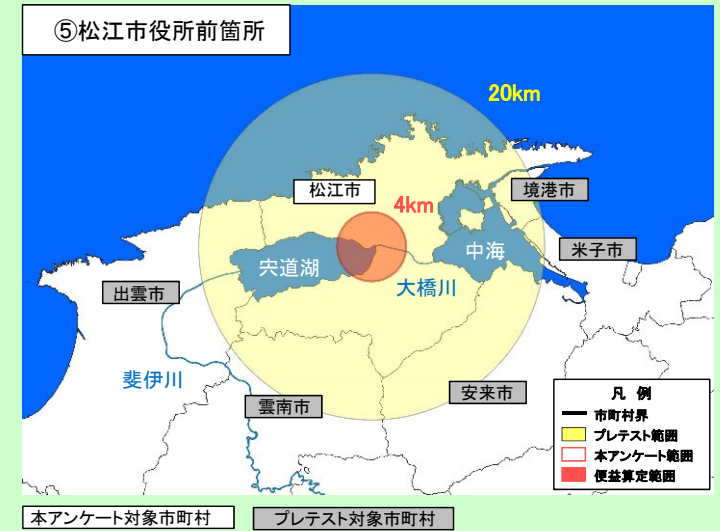
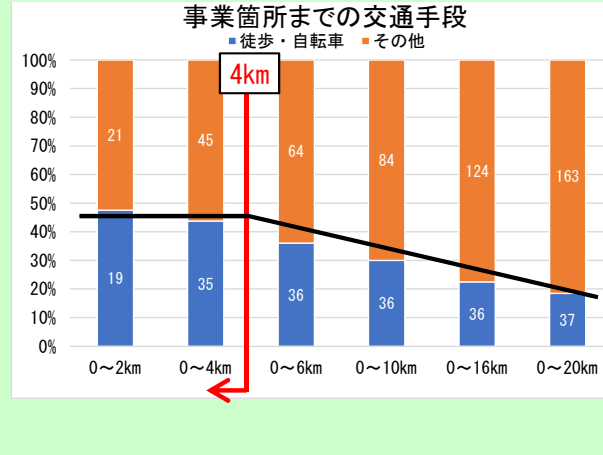
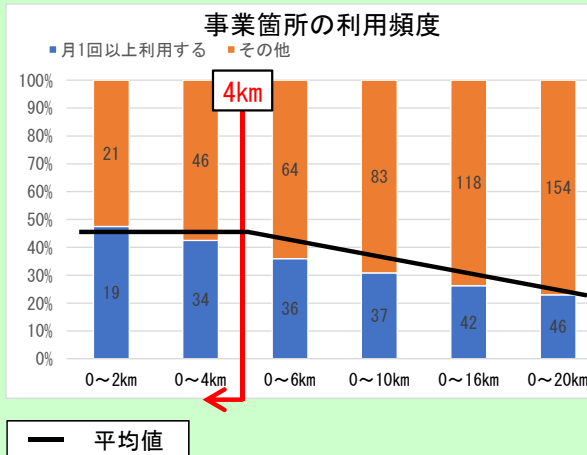
(アンケート結果) ④【水辺整備】木次箇所水辺整備

【全体事業】支払意思額(WTP) = 320円/月/世帯、受益世帯数 4,792世帯
年便益 18.4百万円/年 (=320円/月/世帯×12ヶ月×4,792世帯)

● CVM (住民アンケートによる支払意思額の調査)

■ 調査範囲(アンケート配布範囲=便益集計範囲)の設定

・R2に実施したCVMアンケートプレテストにおいて、事業箇所までの利用頻度、及び、事業箇所までの交通手段の徒歩・自転車割合は、4km以降で低下傾向が見られた。

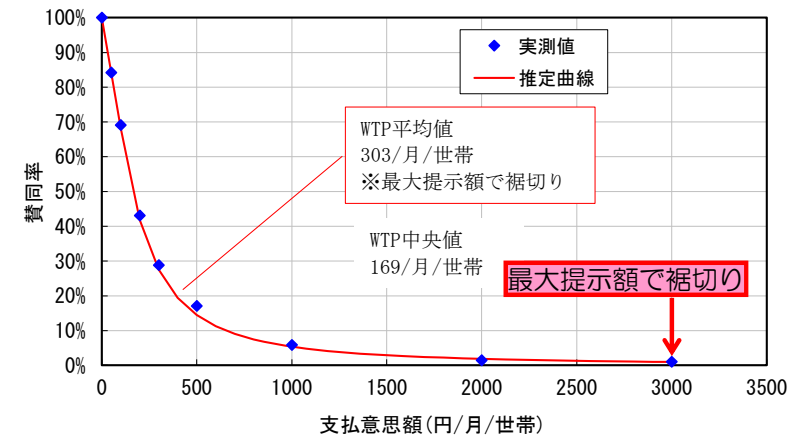


【アンケート回収率・有効回答率】

松江市役所前箇所水辺整備	
実施年月	2020年8月
目標標本数	382
配布数	2,000
回収数	883
回収率	44.2%
有効回答数	615
有効回答率	69.6%

【支払意思額(全体事業)】

今回評価(2022年度)	
評価手法	CVM
支払意思額(全体事業)	303 円/月/世帯数
受益世帯数	57,712世帯 (H27国勢調査)
年便益	209.8百万円



(アンケート結果) ⑤ 【水辺整備】松江市役所前箇所水辺整備

【全体事業】支払意思額(WTP) = 303円/月/世帯、受益世帯数 57,712世帯、
年便益 209.8百万円/年 (=303円/月/世帯×12ヶ月×57,712世帯)

斐伊川総合水系環境整備事業

〔鳥取県への意見照会と回答〕

国中整河環第20号
令和4年 9月28日

鳥取県知事 様

国土交通省
中国地方整備局長
(公印省略)

千代川河川アドバイザー会議及び斐伊川水系河川整備アドバイザー会議に諮る対応方針(原案)の作成に係る意見照会について (依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対するご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下、「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を確保するため、学識経験者等から構成される委員会において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、千代川総合水系環境整備事業については「千代川河川アドバイザー会議」、斐伊川総合水系環境整備事業については「斐伊川水系河川整備アドバイザー会議」を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、会議に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、別紙について貴職のご意見を承りたく依頼いたします。

事業名	「対応方針（原案）」案※	備考
千代川総合水系環境整備事業	継続	
斐伊川総合水系環境整備事業	継続	

※貴県の意見を踏まえ、「千代川河川アドバイザー会議」「斐伊川水系河川整備アドバイザー会議」へ諮る対応方針（原案）を作成します。

■ご意見の送付期限：令和4年10月17日（月）までをお願いします。

※様式自由

■お問い合わせ先（環境整備事業）

中国地方整備局 河川部河川環境課

課長補佐 豊田（内線：3652）メールアドレス：toyota-k87ff@mlit.go.jp

調整係長 越智（内線：3661）メールアドレス：ochi-t87tt@mlit.go.jp

TEL：082-221-9231（代表）

鳥取河川国道事務所（千代川総合水系環境整備事業）

千代水出張所長 小田（内線：6121）メールアドレス：oda-k87en@mlit.go.jp

管理第二係長 福井（内線：313）メールアドレス：fukui-n87dq@mlit.go.jp

TEL：0857-22-8435（代表）

TEL：0857-28-6229（千代水出張所）

出雲河川事務所（斐伊川総合水系環境整備事業）

河川環境室長 廣野（内線：371）メールアドレス：hirono-f8310@mlit.go.jp

河川環境係長 渉（内線：372）メールアドレス：watari-k87at@mlit.go.jp

TEL：0853-21-1850（代表）

第202200172610号
令和4年10月20日

国土交通省中国地方整備局長 様

鳥取県知事
(公印省略)

千代川河川アドバイザー会議及び斐伊川水系河川整備アドバイザー会議に諮る
対応方針（原案）の作成に係る意見照会について(回答)

令和4年9月28日付国中整河環第20号で照会のあった会議に諮る対応方針（原案）
については、異存ありません。

なお、事業の執行に際しては、別紙付帯意見に留意いただくとともに、できる限り経費
の縮減を図られるようお願いいたします。

(担当 河川課 伊藤、菊留 電話 0857-26-7374)

事業執行に関する付帯意見

事業名	付帯意見	備考
千代川総合水系環境整備事業	<p>(1) 水環境</p> <p>袋川下流域は、水質が悪い状態にあり、夏季には悪臭が発生することがあるため、植生浄化や底泥除去などによる水質改善の早期実施をお願いします。</p> <p>また、袋川下流域で合流している県管理河川である狐川の干潮区間においても水質改善が課題となっており、関係機関（国、県、市）、地域住民と一緒に水質浄化対策に取り組んでいるところですが、引き続き御協力をお願いします。</p>	
斐伊川総合水系環境整備事業	<p>(1) 水環境</p> <p>中海では、水質保全計画を策定し、関係機関が連携しながら水質浄化に向けた取組を実施しているところですが、一部項目においては、計画で定めた水質目標が達成できていないことから、より一層の負荷軽減や汚濁原因の解明等のために、現地の状況や効果についてのモニタリングを継続するとともに、引き続き水環境整備事業の推進をお願いします。</p> <p>(2) 水辺整備</p> <p>米子港周辺においては、新たな水上アクティビティの拠点の創出を図るため、ボートやカヌー等の水上スポーツやイベント等で水面利用が容易となるよう水辺整備事業の推進と早期の供用開始をお願いします。</p>	

斐伊川総合水系環境整備事業

〔島根県への意見照会と回答〕

国中整河計第 31 号
令和 4 年 10 月 3 日

島根県知事 様

国土交通省
中国地方整備局長
(公印省略)

高津川河川整備アドバイザー会議及び斐伊川水系河川整備アドバイザー会議に諮る対応方針(原案)の作成に係る意見照会
について (依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対するご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領（以下、「再評価実施要領」という。）に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を確保するため、学識経験者等から構成される委員会において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

また、新規事業採択時の評価については、国土交通省所管公共事業の計画段階評価実施要領（以下、「計画段階実施要領」という。）に基づき、公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、学識経験者等から構成される委員会において、新規事業採択時評価の前段階の計画段階評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、高津川直轄河川改修事業及び高津川総合水系環境整備事業については、「高津川河川整備アドバイザー会議」、斐伊川総合水系環境整備事業については「斐伊川水系河川整備アドバイザー会議」を開催することとなりましたので、再評価実施要領並びに計画段階実施要領に基づき、会議に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、別紙について貴職のご意見を承りたく依頼いたします。

河 第 4 6 6 号
令和4年10月20日

国土交通省
中国地方整備局長 様

島根県知事 丸山 達也
(土木部河川課)

高津川河川整備アドバイザー会議及び斐伊川水系河川整備アドバイザー会議に諮る対応方針(原案)の作成に係る意見照会について(回答)

令和4年10月3日付け国中整河計第31号で照会のあったこのことについては、異存ありません。

なお、事業の執行に際しては、コスト縮減を図るとともに、下記附帯意見に留意いただくようお願いします。

記

[附帯意見]

・斐伊川総合水系環境整備事業

これまで実施してきた事業の検証を踏まえた実施内容の精査を求める。